

表5 三つのアプローチにおける諸概念の対応関係

	(A). 「環境哲学」 【第二部】で言及	(B). 「〈生〉の分析」 【第三部】で言及	(C). 「〈関係性〉の分析」 【第四部】で言及
①	「人為的生態系」としての 〈社会〉の成立と継承	「〈生〉の舞台装置」として の〈社会〉の成立と継承	
②	高度な集団性、社会性の 進化	〈根源的葛藤〉を内包した形 での「集団的〈生存〉」の発 達	
③	〈環境〉の「二重性」とい う存在様式の成立	〈生存〉の実現に加え、〈現 実存在〉の実現および〈継 承〉の実現をも含んだ「〈生〉 の三契機」の成立	
④	膨張する「人為的生態系」 の現代的形態としての 〈社会的装置〉	「〈生〉の舞台装置」から「意 味体系=世界像」のみが矮 小化したものとしての〈社 会的装置〉	
⑤	「人為的生態系」の一成分 としての「意味体系=世 界像」	「〈生〉の舞台装置」の一成 分としての「意味体系=世 界像」	〈間柄〉や〈間柄規定〉の体系 「〈共同〉のための意味」 「〈共同〉のための技能」 「〈共同〉のための知恵や作法」
⑥		〈根源的葛藤〉	「人間的〈関係性〉」に生じる三 つの「内的緊張」
⑦		「経済活動の倫理」	〈社会的装置〉の文脈上での特定 の〈間柄〉の全面化
⑧		「〈ユーザー〉の倫理」	「ゼロ属性の倫理」 「不介入の倫理」 「自己実現」の倫理
⑨		「むき出しの個人」	〈間柄〉が欠落した〈自己存在〉
⑩		「共同の動機」	「〈共同〉のための事実」 「〈共同〉のための意味」
⑪		〈存在の連なり〉	「〈関係性〉の場」
⑫		〈存在の強度〉	「自己への〈信頼〉」